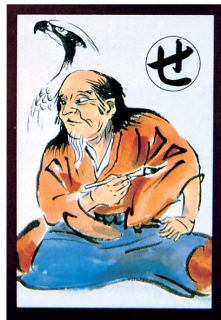


～郷土かるたで故郷発見～

諏訪のいろはかるた(4)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた(信濃文化研究会作成)」に詠われたかるたを紹介します。



せ 潜居して天竜道人画三昧

ぶどうと鷹の画家として、下諏訪に隠棲した天竜道人があった。道人は備前の国鹿島藩の鍋島家老、坂部堅忠の四男として生まれたが、鍋島家世継ぎ問題が起き、道人も推されたが策謀にあい追放の身となった。そのため道人は故郷を離れ禅を修め、長崎では医学を学び、画家沈南蘋を師として画を学んだ。やがて甲州から諏訪に入り、下の諏訪を永住の地として定め、鷹匠と交わって書画風物を友として余生を送った。また詩をよくして「蕉鹿篇」といった漢詩集を残している。ぶどうと鷹を描くのに独特の画風をもって、その奥儀を極めた道人は諏訪騒動に際しては千野三之丸方に味方して奔走した。また晩年には全国の文化人とも交遊があつて、地方文化への貢献も大きかったが、文化七年(一八一〇)九十三歳で没した。



す 諏訪湖の漁法鯉馳は弓で射る

県歌・信濃国に「諏訪の湖には魚多し」とあるが、その漁法もさまざまであった。諏訪湖で行われた古い漁法の一つに鯉馳があった。「諏訪大明神画詞」によると、「当郡の湖上に炎暑のころ、風が静かな日に、鯉馳といつて漁舟で鯉を射るところである。その様子はつり舟数艘を組みならべて、上手な射手が一面に並んで弓に矢をつがえて待っているうちに、左右に鵜縄を付けてその網を引いた二艘の小舟が先になって、その罫を広くしてその中へ魚を追い込みながら沖より水際までずっと漕いできて、両方の網の端を陸地の人に渡すと、老人や子供たちがこれを受け取って引き寄せると、その中の鯉たちはこらえきれずに水の上に躍り上がる。その時、並んだ射手は素早くこの鯉を射る。十中八九の矢は当たって、鯉は波の上に浮かぶ。鵜縄は縄に鵜の羽根をはさんで湖中を引きまわした漁具といわれる。」



しもすわ人形劇まつり

幻想とおとぎの世界へ



県内外の人形劇団が集う



今月のおすすめ

～町図書館から～



ウェンディ・ケッセルマン 文
バーバラ・クーニー 絵

エマおばあちゃん

徳間書店

一人暮らしの72歳のエマおばあちゃんは、村の様子が子どもの頃と比べて随分変わってしまったことを悲しく思います。ある日、自分で昔の様子を絵に描こうと決心しました。年をとると時間がたっぷりあるから何百枚も描きました。そして懐かしい場所をよみがえらせることができました。なんて素敵なエマおばあちゃん。(井上喜久美)



9月の暦 お騎馬
降旗 勇作



谷尻 かおり 著

これだけはおさえたいデータベース基礎の基礎

技術評論社

携帯電話のアドレス帳、インターネットのショッピングサイト、買物した金額で貯まるポイント、チケット類の予約・購入、各種住民サービスこれらITサービスの裏方として活躍しているのがデータベースです。その機能、役割、取り巻く関係者、ファイルとデータベースの違い等について説明されています。更にはデータベース設計、関連言語にもチャレンジしていきます。私たちが日頃、自分で操作するかに関わらず、その恩恵を多大に受けている「データベース」のことをもっと知ってみましょう。(森本祐一)